

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二四（令和六）年度 入学者選抜試験問題

学校推薦型選抜〈二日目〉

二〇二三年十一月十九日（日）実施

国語（基礎学力）

一 注意事項

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

解答用紙の解答科目欄に受験科目を記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから10ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのは法律で禁じられています。

二 解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、「解答番号は 10 」と表示のある問いに対して

④と解答する場合は、下記の例のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

問1 次の(1)～(5)の傍線部の漢字表記として最も適当なものを、①～⑤の中から一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

(1) 敵機が領空内にシンニューウした。

- ① 進入
- ② 浸入
- ③ 侵入
- ④ 新入
- ⑤ 滲入

(2) 最近、近所にフシン人物がうろついているらしい。

- ① 普請
- ② 不審
- ③ 不振
- ④ 不信
- ⑤ 腐心

(3) 突然ヘンイの原因を探る。

- ① 変異
- ② 変位
- ③ 変移
- ④ 変意
- ⑤ 変威

(4) フショウジを防止するための策を練る。

- ① 不生
- ② 不詳
- ③ 不承
- ④ 不肖
- ⑤ 不祥

(5) 時にはヒジョウな判断を下さねばならない時もある。

- ① 非常
- ② 非情
- ③ 非状
- ④ 非丈
- ⑤ 非定

問2 次の(6)～(10)のカタカナ語の意味として最も適当なものを、後の語群①～⑥の中から一つずつ選べ。解答番号は

6

 ～

10

。

- (6) シフト
- (7) チューター
- (8) フレームワーク
- (9) ポテンシャル
- (10) マクロ

語群

- ① 基礎力
- ② 左側
- ③ 移行
- ④ 諸方面に寄付をする者
- ⑤ 枠組み
- ⑥ 巨視的
- ⑦ 微視的
- ⑧ 潜在能力
- ⑨ 個別に支援する者
- ⑩ 入れ物

問3 次の(11)～(20)の意味の慣用句を後の語群①～⑩の中から一つずつ選べ。解答番号は

11

～

20

- (11) 浮わっている。
(12) 疲れ果てる。
(13) 散らかっている。
(14) 動き回る。
(15) 思うように動けない。
(16) 悪い関係を断ち切る。
(17) 他人の成功を邪魔する。
(18) 感謝している。
(19) ある世界に入る。
(20) 赤字になる。

語群

- ① 足の踏み場がない
② 足を抜く
③ 足を入れる
④ 足をとられる
⑤ 足が地につかない
⑥ 足を使う
⑦ 足を向けて寝られない
⑧ 足が出る
⑨ 足が棒になる
⑩ 足を引っ張る

問4 次の(21)～(25)の空欄に入れるのに最も適当な語を、後の語群①～⑦の中から一つずつ選び、マークせよ。ただし、同じ語を二度以上使ってはならない。解答番号は ～ 。

(21) キンモクセイが香り、秋の気配が 漂う季節となった。

(22) お世話になった方を もてなす。

(23) ぼんやり座っていた男は 立ち上がって走り出した。

(24) 両方とも手に入れようと思っていたのに、あっという間に売り切れた。

(25) そんな大変なこと、 引き受けることはできません。

語群

① しめやかに

② あわよくば

③ そこはかとなく

④ よくぞ

⑤ よんどころなく

⑥ おいそれと

⑦ たまさか

⑧ やにわに

⑨ こよなく

⑩ ねんごろに

問5 次の(26)～(30)の四字熟語について、誤りがあれば誤っている漢字の番号①～④を、例のようにマークせよ。誤りがなければ⑤をマークせよ。解答番号は ～ 。

(例) ①四面 ②楚 ③家 ④ ↓ 正しくは「四面楚歌」なので、④をマーク。

(26) ①換骨 ②奪 ③体 ④

(27) ①直立 ②不動 ③

(28) ①臨期 ②応 ③変 ④

(29) ①自我 ②自 ③賛 ④

(30) ①荒唐 ②無 ③形 ④

問6 次の(31)～(35)の例文で使われている敬語について、正しいものには①、誤っているものには②をマークせよ。

解答番号は

31

 ～

35

。

- (31) 先生は私にレポートをお読みしました。
- (32) 先生は私のレポートをお読みになりました。
- (33) 先生は私のレポートを読んでくださいました。
- (34) 先生は私にレポートを読んでいただきました。
- (35) 先生は私のレポートを読みました。

問7 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

宮林医院は(注)環八と青梅街道の交差点にある皮膚科だった。

子どもの時分に、私はよく皮膚に病気をした。

乾燥する時期には必ずかゆくなっていたし、小学校も高学年になると、口のまわりにひびわれやあかぎれができ、それが悪化して、固くなるとそれをはがしては血が出て、さらに痛くなる。だから、常にかさぶたがあるような状態だった。いまから考えたら原因はストレスの一種なのだろうが、当時の自分にはそのような自覚はない。これはいよいよ皮膚科に行くしかないという頃になると、すでに症状は取り返しをつかなくなっていた。だから宮林に行くときは必ず、気持ちが沈んでいたのだった。そう、私たち家族は宮林医院そのものやその先生も含めて、すべて「みやばやし」とだけ言っていた。

宮林医院はいかにも街の皮膚科といった佇まいで、宮林先生という中年の先生がひとりで切り盛りしており、溢れかえる患者をまるでシューティングゲームでもするかのようにひとりずつやっつけていく感じに治療していた。それは投げやりというわけではなく、患部を見つけ最適な治療方法を即座に判断しすぐに行動している様子がそう見えるのだ。先生を支える看護助手さんたちのチームワークも抜群で、泣いていた子どももここに来ると泣き止む。

宮林先生は中肉中背、メガネをかけていて、ギョロツとした目が西郷隆盛のようで、しかしぱっちりとは開いていなくていつも眠そう。「たちちゃん、ひさしぶり！ どうしたの」と、わりとパワーのある低くて野太い声で語り掛けてくる。笑うでも媚びるでもなく、近所のおじさん然とした雰囲気である。

(中略)だけでも、愛想がいいわけでもないこの先生を、嫌いな人はいなかった。貫禄があつて街医者としての自信に溢れており、いかにも現場でたたかっている風だったが、だからといって悲壮感もなく、患者は最後に安心して笑顔で医院をあとにする。私もなぜか親近感を持っていた。そういう人って、なぜかいる。

医院は2階にあり、待合室から診察室に入ると、広い空間で先生があちこち動いている。患者は個室ではなくみなこの広い診察室の一角にあり、包帯を巻かれている人、患部を温めてもらっている人、寝転がっている人などさまざまだ。看護助手さんたちへの指示は大きな声だが、専門用語らしくなを言っているのかわからない。おそらく薬の名前なのだろう。それでいて患者さんの目の前では、その人にしか聞こえない声でしゃべってくれるのだ。

宮林への通院は、中学以降も何度かあった。金属アレルギーでかぶれたり、にきびが大きくなったり。そのたびに普通だったことを思い出し、久しぶりに親戚のおじさんに会いに行くような感覚だった。何年か空いて、先生はこちらのことを覚えてるかどうかと不安なときも、必ず覚えていてくれ、大きくなっ

たねとか、部活はなにをやつてるのとか、1分程度の他愛のない会話を交わす。お互いを確認するにはそれだけで充分だった。踏み込みすぎず、見逃さず、というこの先生の距離感が心地よかったのかもしれない。

大学に通うようになると、大きな皮膚の病気もしなくなり、自分の体質も理解してくる。だいたいのことは市販の薬でなんとかなる。先生に会わなくなることがこちらの元気な証拠だ。あの野太い声と無表情な顔が懐かしくなることはあったが、それにしてももう交わすべき会話もない。そして、宮林先生のこととは医院以外で一度も見たことがない。なので私のなかの宮林先生はずっと白衣のままだ。

ほどなくして、どうやら宮林先生が亡くなったという話を聞いた。決して葬式などに行こうとか、そういう重い気持ちになる関係ではないが、しっかりと、順番通りに、ちゃんとした寂しさを残して宮林先生は亡くなった。これもすべて母親から聞いたり同級生に聞いたりした情報でしかない。それでも宮林先生の記憶は決してなくなるらない。

その後、娘さんが医院を引き継いだという話を聞いた。また、その後医院が少し駅に近い場所に移ったりしていたのもなんとなく知っていた。それでも地域の人間にとっては、四面道しめんどうから荻窪駅おぎくぼ寄りに数百メートルでも移動することは大きな出来事で、宮林医院はほかの郊外駅やチェーン店がひしめく風景などにはない、荻窪ならではの存在感を發揮している。

先年、久しぶりに皮膚科に通わなければならないほどのどうしようもない症状を抱えて、新しくなった宮林医院を訪れた。院内の雰囲気はもはや私の知るものではない。知っている先生もいない。従業員も多くの患者をさばくのに精一杯だ。時間予約ができず、ただ順番の予約だけで、お年寄りから優先的に治療されるというスタイルに変更されており、ほぼ働いている人は来るなどという状況なのだが、それほどに相変わらず人気のある医院でホッとした。

まもなく60歳になろうかという宮林先生の娘さんはいへんかわいらしい。だが、物怖ものおじせずハッキリものを言う感じが宮林先生っぽい。

「あら、こんなに早い番号の患者さんはじめて見た。もう長いですね」

医院が発行しているカルテのナンバーが相当に若い番号らしく、もうそれほどの番号の人たちはそうそう来ていないようだ。つまり、この地域の人々もかなり入れ替わっている。

知らない先生、知らない空間。だれも知らないところなのに、それでもなぜ私は「みやばやし」に来たのか。

そう思って医院を出ようとしたとき、壁にそれなりに大きな絵がかかっているのによく気づいた。それは、油絵で描かれた、あの頃の宮林先生の肖像画だった。先生は嬉うれしそうに少し微笑んでいる。

そうか、これを見て思い出す人たちがいる。心のなかの宮林先生はこんな感じだった。

この絵に慣れる頃には、またここに通う必要がなくなるのである。

(サンキュータツオ『これやこの』による。一部改変。)

(注) 環八——環状八号線の通称。東京都内を走る道路の一つ。

問い 本文の内容に合致するものに①、合致しないものに②をマークせよ。解答番号は

36

45

。

- (36) 著者が幼少のころ、宮林医院に行くときに気持ちが悪く沈んでいたのは、そもそも病院が嫌いだったからである。
- (37) 宮林先生は、シューティングゲームでもするかのように患者をやっつけていた。
- (38) 宮林先生は、実は著者の自宅の近所に住む、親戚のおじさんだった。
- (39) 宮林先生は、患者との距離感の保ち方が適切だったと著者は思っている。
- (40) 著者が大学生になって以降、宮林医院に行かなくなったのは、市販薬でどうにかできるようになったからである。
- (41) 宮林先生は生粋の医師なので、日常生活でも白衣を着用していた。
- (42) 荻窪駅界隈は他の郊外の駅のそれとは異なる雰囲気を持っている。
- (43) 宮林先生亡きあと、移転した宮林医院は高齢者専門の医院になっていた。
- (44) 移転後の宮林医院には、かつて子どもだった患者が高齢者になっても通い続けている。
- (45) 先生も、雰囲気も昔とは異なる宮林医院に著者が来て、今は亡き、心のなかの宮林先生を思い出した。

問 8 次の文中の枠内(ア)～(ク)の文の配列順序として最も適当なものを、後の①～⑥の中から一つ選び、記号で答えよ。解答番号は

46。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

**2024(令和6)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
学校推薦型選抜（2023年11月19日実施）
解答例【基礎学力試験】**

国語							
解答番号	正解	配点	解答番号	正解	配点		
問1	1	③	1	問5	26	④	1
	2	②	1		27	⑤	1
	3	①	1		28	②	1
	4	⑤	1		29	②	1
	5	②	1		30	④	1
問2	6	③	1	問6	31	②	1
	7	⑨	1		32	①	1
	8	⑤	1		33	①	1
	9	⑧	1		34	②	1
	10	⑥	1		35	①	1
問3	11	⑤	1	問7	36	②	1
	12	⑨	1		37	②	1
	13	①	1		38	②	1
	14	⑥	1		39	①	1
	15	④	1		40	①	1
	16	②	1		41	②	1
	17	⑦	1		42	①	1
	18	⑦	1		43	②	1
	19	③	1		44	②	1
	20	⑧	1		45	①	1
問4	21	③	1	問8	46	③	5
	22	⑦	1				
	23	⑧	1				
	24	②	1				
	25	⑥	1				

計	50
---	----